



●数理計画●

4月例会 4月21日(土), 電力中央研究所

“S-Stable Stationary Solutions in NLP”

小島政和氏(東京工業大学)

参加メンバーがさほど変わることなく研究部会名が整数計画法から数理計画となつての第1回目の会合であったが20名余の参加を得て盛会となる。話の内容は非線形計画問題の解の特性に関するもので, “stationarity”, “strong stationarity”を Kuhn-Tucker 条件, Hessian 等を用いて定義しそれらをパラメトリックな非線形計画問題に適用した場合の特性の表現に関するいくつかの結果が紹介された。そして最後には小島さんの訪米談として North-Western 大学, Wisconsin 大学での話も加えられた。

5月例会 5月26日(土), 電力中央研究所

“形状の取り合せ計画問題に対するボタン解法”

小西洋三氏(日立システム開発研)

話の主題は, 1979年OR学会春季発表会において小西さんが紹介された内容にいくつかの考察が加えられたものである。製品の集合, リソース(空間)の集合, 各製品の日々の要求量等が与えられた時に, 製品をリソースに取り合わせるに際してリソースのむだな空間を最小にしつつ総コストを最小にするような製品発送計画を求める問題が論じられた。ここで紹介された方法は整数計画問題

を簡略化するために製品とリソースの取り合せに関連していくつかのボタンを生成しそれらを選択させることによって問題を解決しようとするものであるが, cutting stock 問題等との関連についての討議が行なわれた。

●日本における社会システム分析●

第3回 54年9月22日(土) 14:00~17:00 統計数理研究所において開催, 出席者11名。

議題; 悪魔のいない国日本, オーケン社長 茅野健氏

日本の社会システムを左右するのは, 日本人の価値意識から出発するという命題に立つ時, その原点を探ることは何よりも重要である。このような観点から今まで日本の合理主義について, 不断の研究を積み重ねてきたが, 今回は新たな観点から集団の中の日本人の行動の規範を掘り下げたものであった。日本人の政策形成システム, あるいは組織構造の考え方に示唆を与えるものが, きわめて大きかった。

●実施理論●

9月例会 9月22日(土) 15:00~17:00 東京工業大学(長津田キャンパス) 出席者11名。

Schultz & Slevin (1975) の第6章, An Organizational Intervention Approach to the Design and Implementation of R&D Project Selection Models について, 根本委員の担当で講読会を行なった。本章では, プロジェクト選択のためのモデルの利用意欲の程度が, モデルのもつ特性および媒介変数である組織的要因および採否を決する個人の要因によって説明されることが, 質問紙法を用いた調査にもとづいて論じられている。

編集後記 今年も終り, 12月号はクリスマスプレゼントで多少厚めの号となりました。特集「都市・地域経営」は安田八十五先生の努力で, 神戸市長さんのインタビュー記事などユニークなものとなりました。都市関係では

以前(1977年9月号)に「都市と公共のOR」という特集がありました。今回はまた異なる観点からの分析であり, 前回のと並読していただければ, 一段と面白味もますますでしょう。

オペレーションズ・リサーチ

昭和54年12月号 第24巻 (新シリーズ第4巻) 12号 通巻228号

代表者 小林 宏 治

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 馨 郎

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円 (郵送料含) 年間予約購読料 7200円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日報弘報社 (583-2241), 明報社 (571-2548) へ